

1-A-1 天然杉の巨木

■天然杉の評価基準（※成長の遅い屋久杉の評価基準は少し異なる）

AA 幹周おおむね 15m 以上の単幹樹、同等評価のスギの巨木。

A 幹周おおむね 10m 以上の単幹樹、同等評価のスギの巨木。

B 幹周おおむね 8m 以上の単幹樹、同等評価のスギの巨木。

C B 評価以下のスギの巨木。

杉といえば、京都・北山の美しい北山杉の杉林を連想する。実は、この一本杉は比較的最近になって開発されたスギの品種なのである。

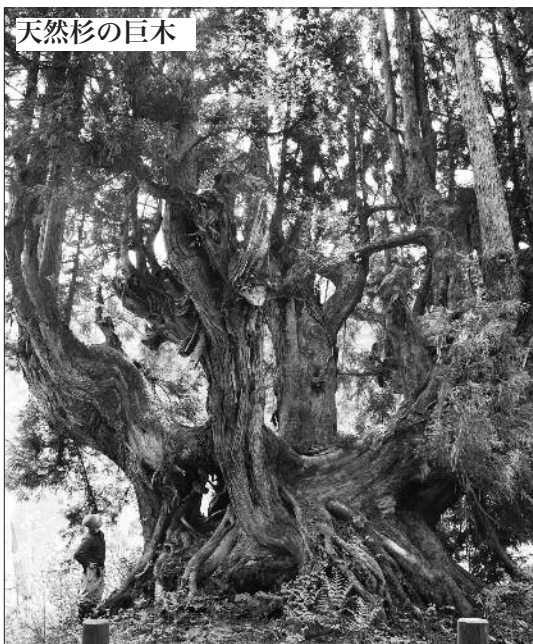
天然杉は今から 10 万年も前、日本列島に普通に生えていた樹木で、その後氷河期で一時衰えるが、1 万年前からの温暖化によって再び分布域を広げた。しかし、この頃からスギの生育地にブナが侵攻し、落葉樹の落葉によってスギの実生更新が抑えられ、自然撓乱地の落葉がない場所等にしか生育できなくなったのである。天然杉が尾根筋や崖、崩壊跡地に多いのはそんな理由からである。林道の山側法面にスギの幼樹をよく見かけるのは、やはりそのような理由からである。

天然杉は又、比較的寒冷地を好み、中部では標高 600～1200m、東北では標高 200～500m の山地に生えている。

天然杉はようやく得た定住地で生延びるために、様々な性格を進化させてきた。冬の積雪に耐えるために枝は実に柔軟になり、葉は細く、枝は垂れるようになった。発芽すると、その幹は実に旺盛に分岐し、根を張る力は抜群である。折れても折れても側幹が主幹にとって変る変幻自在の性格もある。そして、積雪に影響されない高さまで成長すると、一気に垂直に伸び出すのである。この姿が、奇怪な樹形に見えるのである。

対して一本杉は、今から 1000 年程以前、山岳仏教寺院によって品種改良が行なわれ始め、植林用の苗が生産されたと考えられる。優良選抜で選ばれた種子を採取する親杉が、標高 1000m 付近にある山岳仏教寺院や、その跡地に残されている。樹齢 1000 年、幹周 10m を越える一本杉は、実に迫力がある。岐阜県「石徹白の大杉」「弁慶杉」、静岡県「春野杉」、奈良県「玉置神社の神代杉」等である。その後品種改良が進み、標高の低い山地でも生育できるスギや、分岐しないスギ、成長の早いスギが開発されていった。近年では花粉のないスギが開発されている。

しかし、植樹してそのまま奇麗な一本杉になるわけではなく、引き起こしや枝打ち、間伐等、人の手によって材として適するものに管理育成され、ようやく美しい一本杉になるのである。



天然杉の巨木位置図

